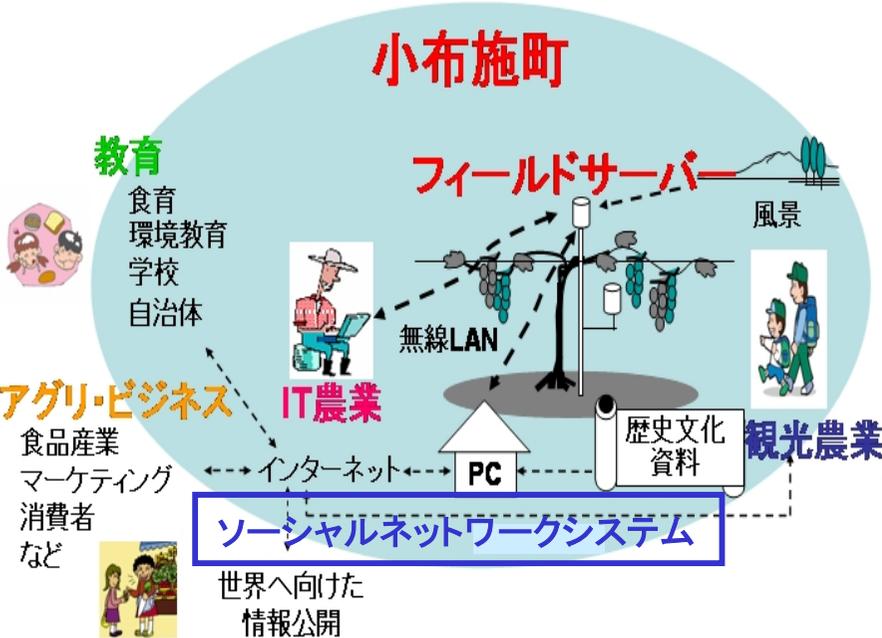


# 実時間圃場データを用いた農情報の共有・促進ネットワーク ー長野県小布施町を事例とした農産業関連情報の利活用ー

## 1 研究目的

圃場現場の実時間情報を、“農・食・環境”に関連する多くの人が利用しやすい形（コンテンツ）で提供する。ソーシャルネットワーク上で農情報を共有化し利用を促進することで、農産業を主とする地域の活性化に役立てる。長野県小布施町を事例として、その有効性に関する実証試験を行う。



農情報共有・促進ネットワーク例

## 2 研究開発の概要

圃場に設置したフィールドサーバ群からの現場情報を実時間で収集・配信する。現場情報から、利用形態（農業従事者、地域産業センター、自治体、小学校、消費者・観光客）毎に最適化されたコンテンツを作成する。農業コンテンツをソーシャルネットワークシステム上でのコミュニケーションの起点（テーマ）とした、農情報の共有・促進ネットワークを構築する。

以下の3つの課題を重点開発課題とする。

- ①低価格普及型圃場現場情報収集・配信システムの開発
- ②圃場現場情報の有効利用を促進するコンテンツの開発
- ③農業をテーマにした情報共有・促進ネットワークの構築

## 3 期待される研究成果及びその社会的意義

農業関連産業振興のための強力な支援ツールが開発される。農業を主産業とする小布施町での実施により、地場産業の活性化が期待される。ITやICT技術の農業への積極的な導入は、若年層の取込みに威力を発揮し、従来の発想にない小布施町独自の営農手法（IT農業）を生む。農業を軸とするコンテンツの配信は、農村部・都市部の新たなコミュニケーションのツールになる。発展性のある農業関連産業の実現に寄与するものである。